

組織拡大討論集会を開催

分散会でも多くの報告や意見を討論

執行部 川村和美

支部組織強化討論集会が8月26日(土)～27日(日)の両日、新大阪のホテルクライトンにて、参加22分会24名、執行部14名の総数38名で開催されました。

討論の前に、永嶋靖久弁護士から「共謀罪と労働組合」と題して、講演を受けました。

永嶋弁護士は、「共謀罪」の問題点として、「一般の人」と自他共に認識している人であっても、「組織的犯罪集団との関与」が疑われ、捜査対象となった段階で、「一般の人」ではなくなる。警察の勝手な都合だけで逮捕される可能性があり、決



して、“活動しなければ関係ない”などと言うことはできない。共謀罪で労働組合を弾圧できるので、私たちが今後どのように

運動を進めればいいのか、大変参考になりました。かつ、“萎縮しない、させられない”ことが重要だと思いました。

討論集会は、1日目はA班・



B班の2班に分かれて討論しました。内容は、組織強化の重要性や分会での人員補充、分会や組織の問題点など5つの議題で討論を行いました。

2日目は全体討論でした。各分会からの意見や執行部の考えを述べあい、議論をしました。

2日間を通して、組織強化に関して多くの意見が出され、活発な議論が行われました。

例年ならば労働学校の予定で

したが、大阪支部の現状から判断すると、組織拡大が差し迫って重要な課題であること、そして拡大のためには、まず組織強化と次代の人材の育成が不可欠であるとの実行委員会における

議論から、この討論集会の開催となりました。

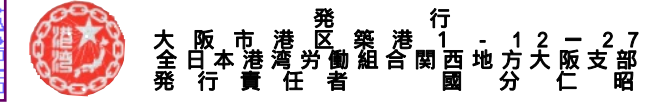
討論集会の結果を踏まえ、今後の学習会や討論集会の企画などを行いたいと考えています。

実行委員会としても初めての試みでもあり、至らない面もあったかと思いますが、参加者のご協力を得て、無事に終了できました。ありがとうございました。

今後は、「討論から実践へ」です。頑張ろう！



第313号 2017年9月26日



護憲の政治勢力を支援しよう！

執行委員長 樋口万浩

近年の自然災害は、6年前の東日本大震災、昨年の熊本地震や、地球温暖化による台風の大型化、ゲリラ的集中豪雨など、かつて経験したことのない規模となっていますが、被害の拡大には、高度成長期における街づくりやインフラ整備の方法に、限界が来ていることを示しているのではないかと思います。

当時作られた水道管は、すでに耐用年数を超えているものが、大阪では25%以上あるとも言われています。

今回こそ見送られましたが、人間の命の源である水道事業を、大阪維新の会を中心に、民営化の計画があります。動向を、今後も注視していく必要があります。

決して忘れてはならないことは、6年前の福島第一原発の事故です。未だに廃炉の道筋はおろか炉の中の様子さえ十分に把握できていません。

高速増殖炉「もんじゅ」の廃炉は決定したものの、危険な“高速炉”計画を進めるとしています。

しかし、人類が核と共存できないことは明らかです。未来を考えると、核を廃絶し、自然エネルギーへの転換を進めていかなければなりません。

政治の私物化を許すな！

森友、加計学園の例で分かるように、安倍内閣は、国民の財産である国有地を二束三文で売り払い、国民の税金を自分の友だちのために私物化するなど、やりたい放題の政治を進めています。まさに“独裁政治”です。

政府はまた、裁量労働制の範囲拡大、高度プロフェッショナル制度の創設(労基法改悪)など、“残業代ゼロ法案”を、遠くないうちに成立させようと目論んでいます。

戦争国家にしてはならない！

安倍政権はまた、朝鮮民主主義人民共和国との緊張をあおり、あたかも日本にミサイルが飛来し、戦争が起こるかの如く国民の恐怖を煽りたて、5兆円以上の軍事費を計上し、最後には憲法そのものを変えて、戦争ができる国づくりに向けて躍起になっています。

衆議院選に勝利しよう！

人にやさしく平和な国を創るのが、政府がやらなければならない最も大切なことです。

急な衆議院解散と総選挙となりましたが、自・公・維新の好戦的政党ではなく、憲法を守り、平和を守る、労働者のための政党に投票しましょう！

大阪支部ホームページ開設中！



アドレスは <http://www.zenkowan-osk.org/>

東アジア青年交流プロジェクト・訪口団参加

ヨーロッパ的な雰囲気のある街並

書記次長 吉 駒 真 一

7月14日～18日の5日間、極東ロシアへ13名にて訪問しました。

支部から、東アジア青年交流プロジェクト・ロシア訪問団に参加するようにとの指示を受けたときには、ロシアは寒い気候と暗い空や街並み、治安も悪く、出歩く人も少ないなど、勝手に暗いイメージを抱きました。このため、ロシアへの興味よりは、普段から集会などでよく顔を合わせる地域の方がたとの交流を深めたいとの気持ちで参加しました。

ところが、出発時から驚きの連続でした。昔から「ロシア唯一の不凍港」として、重宝されていたウラジオストク市へは、2時間ほ

想を遙かに越え、30度もありました。しかも日没は午後9時頃で、多くの家族連れやカップルが、つかの間の夏を惜しむかのように、遅くまで屋外で遊んでいました。

街並は、これまでに東アジア交流プロジェクトで行ったアジアとは大きく異なり、ヨーロッパの雰囲気が強く漂っていました。鮮やかな色彩のロシア正教会、築後100年ほどのレンガ造りの建物、広い通りには街路樹が植えられ、いたるところに花が咲き、カフェやレストラン、海沿いの遊園地などなど、未体験の美しさに、時の流れを忘れました。

公式訪問先の、政党・公正ロシアとの交流では、「ビジネスチャンスは多くあり、中国企業はどんどん進出しているが、日本は中国よりもやるのが遅い」との指摘が強く印象に残りました。



「日本センター」では向井所長から、日口貿易・交流の話をお願いしましたが、内容は次の機会に譲りたいと思います。

「日本に一番近いヨーロッパ」である極東ロシアには、機会があれば皆さんもぜひ一度、訪問されることをお勧めします。

最後に、準備などお世話等していただいたさまざまな方に深く感謝します。そして、訪口団の皆さん、素敵な時間をバリショーエ（本当に）、スパシーバ！（ありがとう）



ウラジオストク・革命広場



ウラジオストク駅舎にて

どで到着。3日後には、シベリア鉄道の夜行列車でハバロフスク市に移動しましたが、どちらの街も澄み切った青空で、最高気温は予

日韓平和連帯ピースキャラバン隊訪韓レポート

執行部 横山貴安基

8月11日～17日の7日間、日韓平和連帯・沖縄意見広告運動主催の韓国キャラバン隊の一員として、初日は神戸からフェリーを乗り継ぎ、韓国・釜山港に到着しました。

半分に折れたセウォル号

まず、韓国大型旅客船「セウォル号」の引き揚げ現場(木浦港)に行きました。転覆事故から3年、船体はドックに横たわり、無残にも半分に引きちぎられた姿は衝撃的でした。周囲の木々やフェンス



には、鎮魂の黄色のリボンが無数に括られており、その中にはハングル以外の文字もあり、世界的にショッキングな事故であった事を再認識しました。その夜は、全北の労働者と交流、意見交換をしました。

ショッキングな拷問部屋

2日目はソウル。「警察庁人権センター」を訪れ、講義を受けました。この建物は民主化運動人士であったパク・ソンチョル氏たちが、弾圧による拷問を受けた場所

で、12年程前まで使われていたとのことでした。

拷問を行う部屋は5階でしたが、拷問される人物は目隠しをされ、1階から5階まで止まることのないエレベーターに乗せられ、自分がどこに連れて行かれてるのか分からない恐怖を与えると聞きました。各部屋には水拷問のための水槽や、やや広めの電気拷問の部屋があり、なんとも言えないような不気味な恐怖を覚えました。

その後、西大門刑務所の視察をしました。ここは1908年～1987年までの約80年間、反政府活動者を収容していた所ですが、今日では資料館になっています。中庭では、翌日の8・15南北統一平和集会に向けた前夜祭が、若者を中心に行われていました。

非武装地帯から南北鉄道へ

3日目は、高陽市にある、多くの民間人がアカ（政治犯）と決めつけられて虐殺された洞窟（金鉞）を視察し、続いて、非武装地帯である臨津閣（イムジンガッ）を見学しました。

その後、南北を結ぶ鉄道の駅、都羅山駅を訪れました。ここは、南側から北の開城工業地区に向かう主要駅で、当時は人や物が行き交い、大変活気に満ちた駅だったが、今では操業停止に伴い、閑散としていました。駅として使われる事もほとんどなくなったそうです。

暑い南北統一平和集会

今回最大の目的である8・15集会に参加し、あいにくの雨天でしたが、韓国国民の平和に対するアピール、歌や踊りを観て、個々人の熱気が一つになった集会を実感しました。



その後、会場からアメリカ大使館へ、横断幕を持ち、デモ行進を行いました。私は言葉が分からず、声を上げることはできなかったのですが、参加者が一丸となってアメリカに抗議する思いがひしひしと伝わってきました。

議事堂前に抗議テント

最終日、宿泊したホテルのすぐ近くにある、パク・クネ韓国前大統領が所属していたセヌリ党本部前や韓国国会議事堂を訪れ、平日の朝の通勤時間にも関わらず、テントを張って抗議行動をしている市民を見ました。

韓国民衆の力強さに触れた

自分にとって初めての訪韓でしたが、韓国の歴史に触れたことも新鮮であり、そして何より韓国国民の政治意識の高さ、一人ひとりが自分たちの力で国を作るのだという熱い気持ちに触れたことが、何よりの感動でした。

今回の体験を、日本の労働者にも伝え、広めることで、少しでも今の日本を変える手がかりになればと思います。